



新型コロナも発生以来かれこれ3年、感染者減少どころか拡大している中で政府は外国人観光客受け入れ再開、全国旅行支援キャンペーンと社会経済活動重視へと政策転換、こちらも今更行動制限でもあるまいと緊張感喪失、山行計画に余念がないというところだが、予期せぬ落とし穴に嵌ってしまい戸惑っている。この3年間での衰えが過去経験したことのない程急激過ぎるのだ。

ともあれコロナもさることながら天気が安定せず計画進めにくい中、何とか都合をつけ錦秋の秋を満喫したいと以下の山行を実施した。

（編集部注：当記事は「国内登山記録」ページの当該山行先欄からもジャンプさせています。その場合には、本記事の性格上、上記ページの当該山行先のいずれからのジャンプも全て3篇合編の当記事に飛んで来ることにご注意ください）

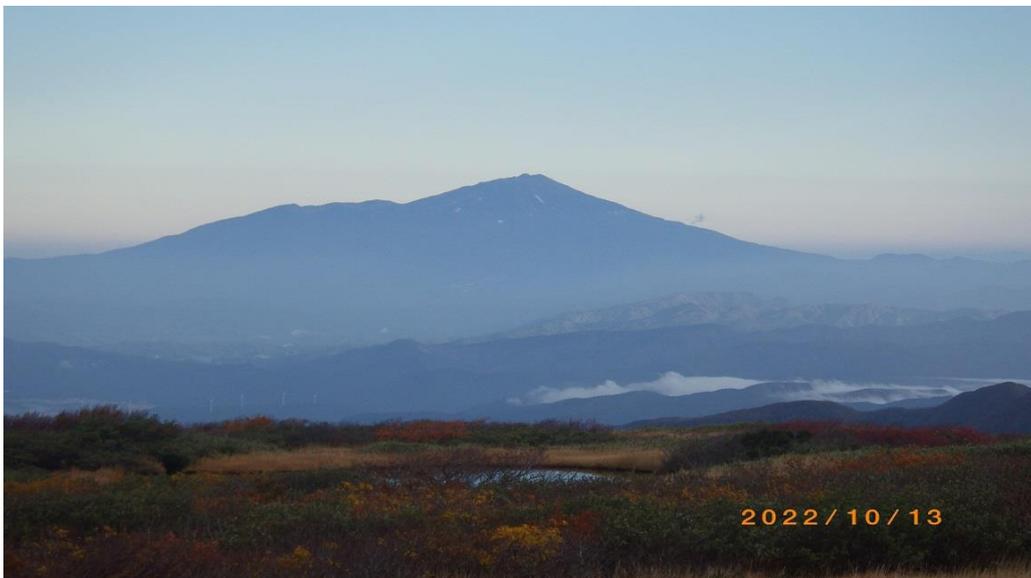
▲▲▲ 1. 山形県・立石寺（山寺）&月山（1984m） ▲▲▲

- 期日 : 10月13日（木）～14日（金）
- メンバー：赤澤他1名（妻）

独身時代は山には縁遠くスキーにはまっていた。雪が深く山男だけの世界であった月山にスキー場が開かれリフトも出来たと聞いて早速仲間2人に声をかけ、高速道路もない時代の1969年5月初め愛車カローラ駆って4号線をトコトコと出かけたものだ。スキー場はオープンしたばかりで同好の士多く、姥ヶ岳（1670m）直下まで架けられたリフトは力不足で1人置き乗車の為長い列が出来ていた。この時は姥ヶ岳まで30年後の1999年6月、同ルートから月山に登り、反対側からもう一度登ってみたいと胸に秘めていた月山。

1日目は移動日、曇り空のもと途中芭蕉の句で知られる立石寺（山寺）に立ち寄り1015段の石段辿って奥の院（417m）往復、いい足慣らしになった。紅葉にはまだ早く、盛りは2週間後位になるらしい。下山後は山形自動車道庄内あさひICから羽黒山キャンプ場へ出てテント泊、空いていて他には3組のみでなんか寂しい。

2日目、4時起床、朝露でびしょり濡れたテント回収、5時半まだ真暗な中出発、登山口の月山八合目へ向かう。林道は舗装されているものの狭く暗闇の中のハンドル操作に緊張を強いられる。八合目の標高は1380m、まずまずの天気の中見下ろす日本海に朝霧が漂い、北には鳥海山が大きく聳え立ちこの風景を目にしただけでも来た甲斐あったというもの。 （↓ 登山道から望む鳥海山）



頂上まで標高差 600m は老骨に相応しいと云える。実際木道と石畳の midpoint 在する池塘広がる弥陀ヶ原湿原を経て頂上に至るコースは急登も危険な岩場もなく東北自然歩道にもなっていて老夫婦向きを実感した。

終日曇り空で陽がささず折角の紅葉も映えず期待した程ではなかったのが残念であった。

(月山頂上⇒)



《コースタイム》

八合目登山口 6 : 30→8 : 15 仏生池小屋→9 : 30 月山頂上 9 : 50→10 : 55 仏生池→12 : 15 登山口

▲▲▲ 2. 栃木県・富士山 (ふじやま・1184m) & 日留賀岳 1849m ▲▲▲

●期日 : 10月26日(水)～27日(木)

●メンバー : 赤澤他1名(妻)

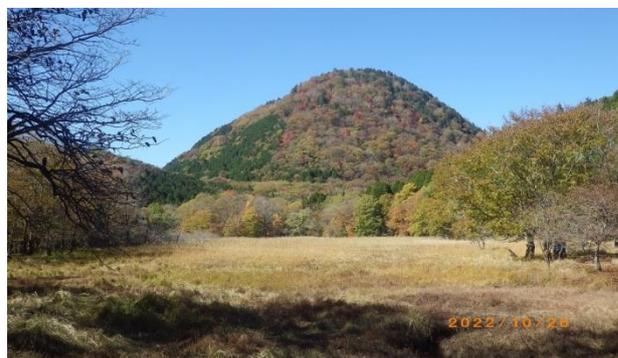
日留賀岳の山名を知る人は少ないだろう。栃木百名山に選ばれているが地元の人と余程の通でない限り知られざる山。最初に試みたのは2007年4月1日の事、シリウス発足幹部のKm氏の交流山行だった。メンバーはKm氏の他 In 氏、Hg さん、Ok 氏、Kw 氏、Hr さん、赤澤という面々。この時は出発が遅かった事もあり途中退却だったので今回はリベンジ山行である。15年前の「7人の老兵」だが最高齢の Is さんは09年12月虚血性心疾患で死去(享年75)。「超人」と崇められ元気だっただけに早すぎる死に驚いたものだ。リーダーKm氏は体力衰えたとし退会したが、山歩きは控え近郊の街歩きをしていると年賀状を頂いた。「若くないんだから無茶しようぜ」と当会一の張り切りボーイを自認していた Kw 氏も体調崩し闇魔様に拝謁してきたようでもう無茶は出来そうもないし他の3名も登山は諦めたとおっしゃる。

かくいう小生、虚血性心疾患と診断され発作が起きた時の対応にニトロ携帯、変形性膝関節症の上にこの2月には座骨神経痛を患う等齢相応にガタついているが、意識的にカラ元気出して何とか頑張っているという次第。

移動日の1日目は塩原温泉の「塩原自然研究路」を辿り新湯富士(あらゆふじ)へ。奥塩原温泉登山口の爆裂火口跡は那須岳・湯元温泉の殺生石や箱根大涌谷を想起させ今なお水蒸気と共に硫黄ガスを噴き出していて塩原にもこんな所があったのかと見直した。山頂まで凡そ1時間、大沼へ下山したがここで見上げる富士山はポッコリして可愛い小山だった。



(新湯爆裂火口)



(大沼園地より新湯富士)

紅葉シーズンとあってか、事前に電話した宿は3軒共に満室とあり、今回もテント。塩原グリーンビレッジキャンプ場は温泉付きでなかなか良かった。お勧めです。

2日目4:50起床。寒い朝。外気温0度、車のフロントガラスはガチガチに凍りついていた。キャンプ場ゲートが6時半に開くのを待って出発、25分程で中塩原白戸集落最奥の小山秋雄氏宅に着く。ここが登山口で小山氏は登山客の便宜を図り無料で駐車させてくれる。早出のつもりだったが既に先着組が3台に少しばかり驚いた。15年前は青春18キップ利用し宇都宮線・西那須野からタクシー飛ばしたが、出発10時と遅かったのが途中退却の原因、今回は満を持して7時15分の出発。

杉、檜の植林帯を30分程で送電線鉄塔の立つ林道に出て、緩やかに林道歩き30数分で林道終点となり左手の山道に入った。カラ松植林帯からブナやミズナラなどの落葉樹林となり赤・黄・緑三色交じり陽に映えて見事なものだ。綺麗な紅葉はいいのだが、展望はまるで効かず頂上がどっちか分からない。直に尾根への急登となり相棒は遅れ気味で、先の月山の開けた高原の解放感に比べてこちらは何も見えず閉塞感があり疲れが増すと云う。急登の先小尾根に出るとそこで漸く山頂が顔を出した。ここで標高1400m程、頂きはどっしりと大きくまだまだ遠い。

出発から3時間10分で最初の目標地点「木の鳥居」に着いた。記録を繙くと15年前のKm隊では2時間40分だったので30分遅いが、後期高齢者まあまあ頑張っていると言えるだろう。

そこから先も展望効かずただ黙々と歩くだけ、海霊神とある小石碑地点で相棒は帰路を考えるともうここまでで充分、1人で行ってくれとギブアップ宣言。まだ昼前で天気も良いので往復2時間かかるが決して動かず待っていてくれと1人で頂上を目指した。かなり先を急ぎ12時10分日留賀岳頂上に立つ。15年越しのリベンジ成り360度の展望に山座同定を試みる。間近の鶏頂山、高原山、Kmさんと辿った大佐飛山は懐かしく他には日光連山や尾瀬・燧ヶ岳等はすぐ分るが、遠く安達太良山や磐梯山となるともう分からない。手前大佐飛山塊の山肌を抉る塩那道路が痛々しい。ずっと通行止めのままほったらかしの道路は一体何なんだ。12:50首尾よく相棒と合流、下りは3時間15分で登山口に下山した。



(登山道より望む日留賀岳頂上)



(日留賀岳山頂)

《コースタイム》

新湯富士：奥塩原・温泉神社9:15→10:20 富士山10:30→11:00 大沼園地11:35→

12:20 温泉神社前下山

日留賀岳：登山口7:15→8:20 林道終点→10:25 木の鳥居→11:15 海霊神→12:10 日留賀岳頂上

12:20→12:50 海霊神13:00→13:35 木の鳥居→15:50 林道終点→15:35 登山口下山

▲▲▲ 3. 野県・独鈷山 (1266m) & 黒姫山 (2053m) ▲▲▲

●期日 : 11月8日(火)~9日(水)

●メンバー: 赤澤他1名(妻)

天候等の影響で途中から引き返してしまった山は出来る限り再挑戦してきたがそのままになっている山がある。大物その1は06年3月の伯耆大山で風雪激しく7合目で退却、その2が黒姫山だ。こちらは16年6月の事、蒸し蒸しする中、表登山口から頂上を目指したが、ブヨの大群の襲撃と、折からポツポツ降り出したのを機に7合目から逃げ帰っておりずっと気になっていた次第。

1日目の移動日は上田市郊外の独鈷山（どっこさん or とっこさん）に行く事にした。この山を知ったのは上田市南西に広がる塩田平の山に詳しい坂井さんの報告からである。独鈷とは両端が尖った仏具のことらしい。

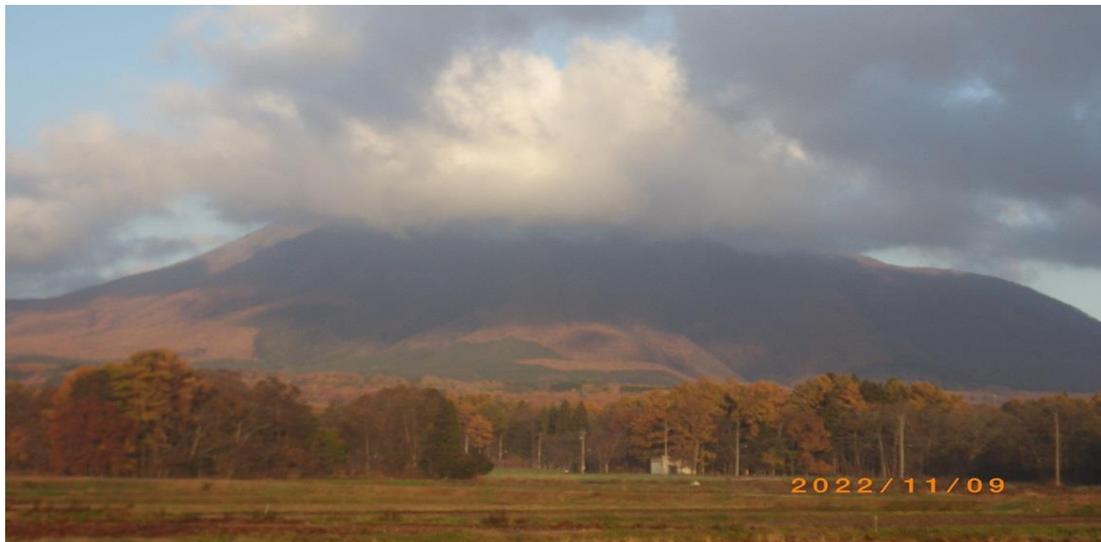
ナビに導かれ霊泉寺温泉手前の虚空蔵堂にある「独鈷山登山口」の大きな案内板に従い右折、少し行くと鹿止めゲートのある駐車場に着いた。登山道は杉林の中御屋敷沢に沿って緩やかに付けられ卯、辰、巳と12子の祠に導かれる。キノコ山らしく立ち入り禁止の看板やテープが目立つ。やがて急登となり広葉樹林に入ると赤・黄・緑の紅葉が目立ち、敷き詰められてふかふかの落葉が滑り歩き難くなり標高は低いが結構神経使う箇所もあり侮れない。

歩き始めて丁度2時間で2基の石碑が鎮座する頂上に着く。北に浅間山、菅平、南には美ヶ原、蓼科山～八ヶ岳と連なる眺めが雄大で足下に広がる塩田平には幾つもの溜池が点在し周囲の山との調和が楽しめるいい山だった。坂井さんに薦められた窪島誠一郎氏の「無言館」へ立ち寄ってみたが生憎の休館日との事、彼の「明大前物語」は面白かったので残念。今回は戸倉上山田温泉の宿が取れ露天風呂で皆既月食眺めながら寛ぐことが事が出来た。



(独鈷山山頂)

2日目はナビに従い長野市から県道37号長野信濃線を辿って黒姫高原スキー場に向かった。途中信濃町の山里からどっしりと大きな黒姫山が望まれたが、山頂部は雪雲に覆われ寒々としている。天気予報は晴れなのだがとブツブツ。シーズン前のスキー場は閑散として寂しい限り。トイレもクローズだ。



(山里から望む黒姫山)

7:20 小泉登山口を出発。カラ松樹林帯に沿ってゲレンデをまっすぐ登る。スキー場の登りというのは結構ツイものだが登るにつれ背後に野尻湖と斑尾山が見えてきて、右手には雪雲消えた妙高山が恰好良く疲れが癒される。途中花イグチ 2ヶゲット、9月がシーズンなのでなんで今頃？と思うが好きなキノコなのでにんまりする。



(雪雲消えた妙高山。スキー場から望む)

ゲレンデトップから登山道入り口が分からずウロウロし時間ロス、繁茂する雑草や灌木に覆われていて分かり難く標識欲しいところ。その先も大岩ゴロゴロ、倒木、根曲り竹などに遮られ降ったばかりのうっすら積もる新雪に足を取られと歩き難く、名の知れた有名な山なのにあまり手入れされてなく疲れも倍加だが、これがラストチャンスと何とかハッパかけ歩き始めから5時間25分で何とか頂上に達した。



(黒姫山頂上)

道中誰にも会わない静かな山旅、下山途中では道迷いがあり20分以上ロスするドジもありコースも長くうんざり、このコースを選んだのは失敗だったようだ。

《コースタイム》

独鈷山：登山口 9:20→11:20 独鈷山頂上 11:35→12:55 登山口下山

黒姫山：登山口 7:20→9:55 姫見台 10:00→11:40 黒姫乗越→12:45 黒姫山 12:50→14:10

黒姫乗越→15:30 姫見台→16:45 登山口下山

★来年の課題

山形、栃木、長野と回ってきたが、これも車あっての事、車が無ければとても回れたものではなかったろう。高齢者ドライバーが問題になって久しく、来年6月の免許更新はどうしたものか悩んでいたがもう1回更新しようと思う。谷川岳とか奥多摩、塩山までの中央線沿線なら電車で行けるし、夜行バスを使えば北アルプスの夏山も行けそうだが、北関東や東北などは難しい。今回は3回とも妻同伴だったが、助手席に座り難聴でよく聴こえないナビの音声を右だ、左だ、信号赤だ、青だ、眠気覚ましに時々固焼き煎餅やリンゴを手渡ししてくれる相棒の存在は有難く、これならあと2~3年は大丈夫そうだ。登り残した山や辿りたいルートがまだまだ沢山あるので同行者・ワイフで気合をいれよう。(了)